

平成18年度 国民保護図上訓練アンケート結果

1. アンケートの方法

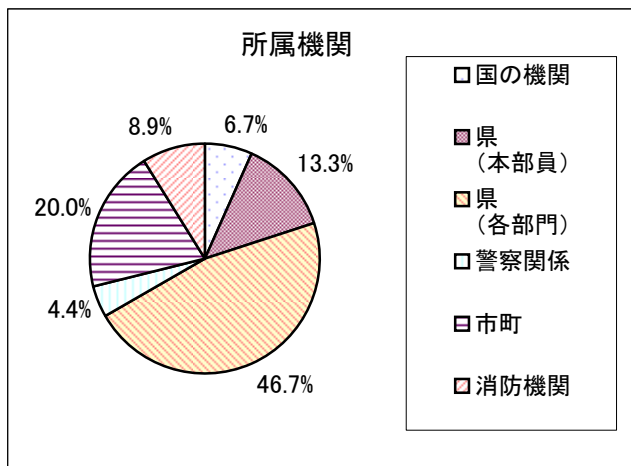
国民保護図上訓練の参加者に対して、訓練後アンケート用紙を送付し、回答を依頼した。

2. アンケート回答数 45 人

3. 回答結果 ※各項目の割合については、端数を四捨五入しており合計が100%にならない場合がある。

○所属機関構成

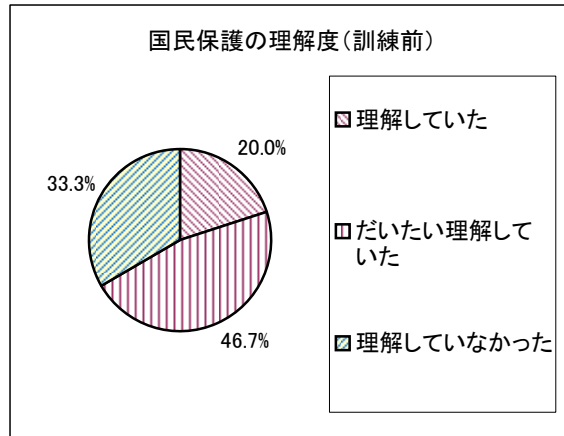
国の機関	県 (本部員)	県 (各部門)	警察関係	市町	消防機関	計
3	6	21	2	9	4	45
6.7%	13.3%	46.7%	4.4%	20.0%	8.9%	100.0%



- 各部門の内訳
- ・防災部門…5
 - ・情報収集部門…5
 - ・消火・救出・救助部門…1
 - ・応援受入部門…2
 - ・医療・救護部門…2
 - ・食糧・飲料水・生活必需品部門…1
 - ・本部支援部門…2
 - ・調整部門…1
 - ・運営支援…2

○国民保護の理解度(訓練前)

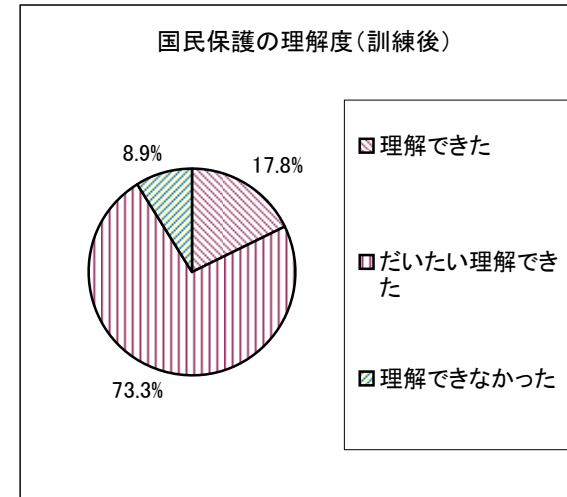
	国の機関	県 (本部長)	県 (各部門)	警察関係	市町	消防機関	計	割合
理解していた	2	1	3	2	1	0	9	20.0%
だいたい理解していた	1	4	8	0	4	4	21	46.7%
理解していなかった	0	1	10	0	4	0	15	33.3%
計	3	6	21	2	9	4	45	100.0%



国民保護図上訓練の実施前の段階で国民保護についてどの程度理解していたかの問いであるが、約67%の参加者が、「理解していた」、または、「だいたい理解していた」と回答している。概ね3分の2の参加者が国民保護についてある程度理解した上で参加している。

○国民保護の理解度(訓練後)

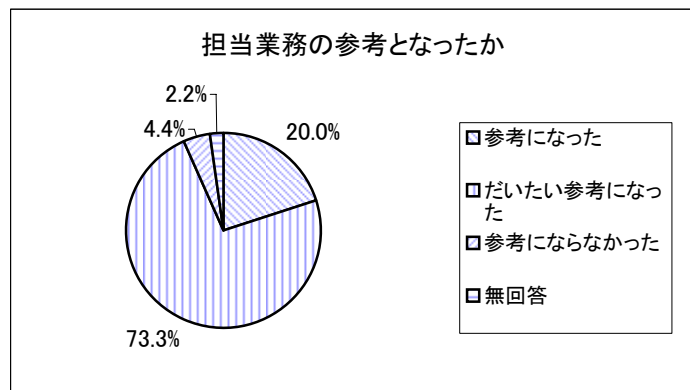
	国の機関	県 (本部長)	県 (各部門)	警察関係	市町	消防機関	計	割合
理解できた	2	1	3	2	0	0	8	17.8%
だいたい理解できた	1	5	15	0	8	4	33	73.3%
理解できなかった	0	0	3	0	1	0	4	8.9%
計	3	6	21	2	9	4	45	100.0%



国民保護図上訓練の実施後の段階で国民保護についてどの程度理解できたかとの問いであるが、約91%の参加者が、「理解できた」、または、「だいたい理解できた」と回答している。訓練の実施により、国民保護の理解度が深まった。

○担当業務の参考となったか

	国の機関	県 (本部員)	県 (各部門)	警察関係	市町	消防機関	計	割合
参考になった	1	1	4	1	2	0	9	20.0%
だいたい参考になった	2	5	15	1	6	4	33	73.3%
参考にならなかった	0	0	2	0	0	0	2	4.4%
無回答	0	0	0	0	1	0	1	2.2%
計	3	6	21	2	9	4	45	100.0%



担当業務の参考となったかという問いである。
 約93%の参加者が「参考になった」、または、「だいたい参考になった」と回答しており、訓練の効果があったといえる。

なお、「参考にならなかった」理由としては、

- ・水害時の災害対策本部と業務としては同じであった。
- ・所属した部門が、どういう役割なのか、何をどうすればいいのか、何をどうすれば良かったのかが分からなかった。

という意見があった。

○今回の訓練で気づいた点、改善すべき点(主なもの)

事前準備関係

- ・部門内だけでなく、全体の具体的な作業内容や流れ、役割分担について、事前に十分説明する必要がある。

会場関係

- ・情報部門と防災部門が隣接している方が迅速な対応が図れる。

体制関係

- ・状況を見て、人員の配置を指示する人がいるとよいのでは？
- ・応援受入等発生当初は特別業務がない部門も情報を共有しておく必要があることから、あらかじめ、防災や情報など多忙な部門に割り当てを決めておいて、業務がでてきた段階で本来部門に入るようにした方がよいのでは。
- ・情報収集部門の人員を増やした方がよい。
- ・①素人が集まっても、すぐに動けるにはどうすればよいのか、②各部門に業務の内容を熟知した人を置き、強力なリーダーシップで担当業務を実行する、この2点が重要である。

情報関係

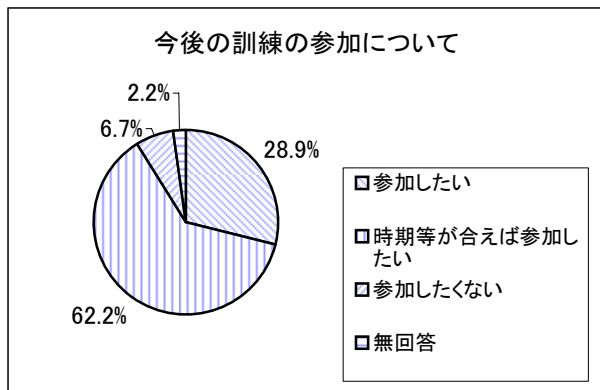
- ・新たな情報を認知した場合における関係機関への速やかな情報伝達と情報の共有化の推進が必要
- ・メディアからの情報収集にまで手が回らなかった。(メディアの情報の方が早い場合があるため専門担当者が一人必要。)
- ・情報収集部門の役割は重要であるため、人手は多ければ多いほどよいと思う。(役割分担と横の情報交換が不可欠である。)
- ・緊急事態における報告、連絡、情報の取りまとめの方法については、すべてを優先させることはできず、対応が難しいと感じた。
- ・今回の訓練については、情報共有システムの活用をもっと図ることで各部門の連絡を省略する方法や、本部会議前の資料作成にはある程度の余裕(人員、時間)および情報の集約の方法を改善すべきだと思う。
- ・情報が輻輳したときは、現場の情報を優先すべき。

その他

- ・各会議に部門の代表も入るよう指示があったが、常に配布資料が足りなかった。
- ・マスコミ対応訓練(記者会見)はある意味で問題点を浮きぼりにし、対策としてどうあるべきかを検討または回答するという形式であり、大変効果的な研究会の意味があり良いアイテムと思う。
- ・状況付与に関して、単に時間になったから状況付与するというのではなく、ある一定条件を満たさなければ次に進めないような実践的な状況付与の手法も検討してはどうか。

○今後の訓練への参加について

	国の機関	県 (本部長)	県 (各部門)	警察関係	市町	消防機関	計	割合
参加したい	3	3	2	1	4	0	13	28.9%
時期等が合えば参加したい	0	3	16	1	5	3	28	62.2%
参加したくない	0	0	3	0	0	0	3	6.7%
無回答	0	0	0	0	0	1	1	2.2%
計	3	6	21	2	9	4	45	100.0%

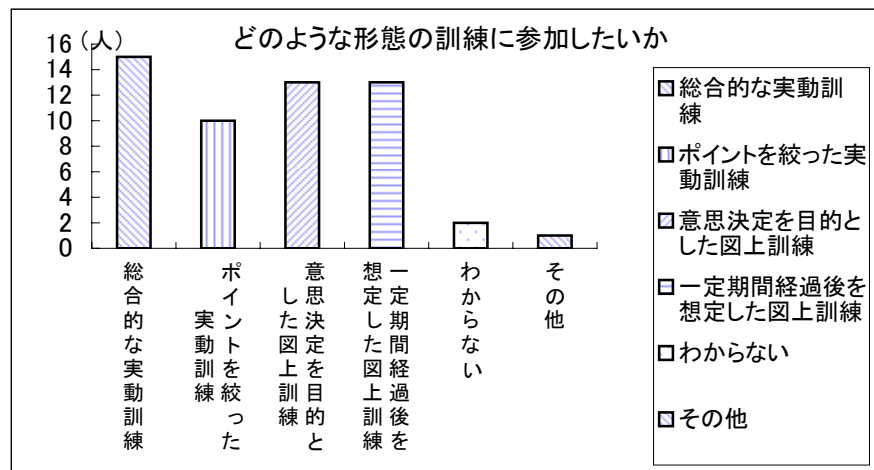


今後も訓練に参加したいかという問いである。
 約91%の参加者が「参加したい」、または、「時期等が合えば参加したい」と回答しており、訓練への参加意識は高いといえる。
 ただし、約62%は時期等が合えばという条件付であり、訓練の実施時期に事前の調整が必要である。

○どのような形態の訓練に参加したいか(複数回答)

	計
総合的な実動訓練	15
ポイントを絞った実動訓練	10
意思決定を目的とした図上訓練	13
一定期間経過後を想定した図上訓練	13
わからない	2
その他	1
計	54

参加を希望する訓練の形態についての問いである。
 15人の参加者が昨年度実施したような「総合的な実動訓練」に参加したいと回答している。また、「意思決定を目的とした図上訓練」、「一定期間経過後を想定した図上訓練」に参加したいと回答した参加者がそれぞれ13人いた。
 訓練すべき項目として、電車、バス等を利用した住民避難訓練のほか、避難誘導から避難所運営までの住民対応に関する訓練やダムなどの警戒訓練などが挙げられた。
 また、その他として、業務内容を熟知するための講習会の開催を希望する意見もあった。



○自由意見(主なもの)

訓練方式関係

- ・今後は図上訓練とはいえ、より現実的な訓練を取り入れ、参加機関がより実践に即した対応を図れるようにしていただきたい。
- ・県庁内各課にも担当を決めておいて、コントローラーから与えられた案件に対し、咄嗟の判断を求めてもいいように思う。
- ・緊急時に皆が迅速で正確な情報を伝えるため、早くきれいな字で細やかに記録・伝達する訓練が必要。
- ・ブラインドということもあり、よい訓練であった。問題点が多くあると思うが、訓練をしないと出てこないことであり、今後はこういった問題点を一つ一つ解決していけばよい。
- ・回を重ねればもっとスムーズに行えると思う。関係機関の役割も明確化されると思われる。次回は各機関一堂に集まらず各機関の本部で図上訓練することも検討されてはどうか。
- ・ブラインド形式での図上訓練は、多様な想定ができること、実際の判断が求められる実践的訓練ができることから有効な訓練形態だと感じた。
- ・思うような時間も取れない訓練の中で、何を判断しなければならないのか、案としてどのようなものがあるのか、何故その案が採用されないのかといった会議(対策本部会議など)を行うような一点集中型の訓練も必要なのではと思う。
- ・ブラインド方式はよかったと思うが、緊急事態の内容以外は、もう少し時間をかけて、設定等の細かい打合せが必要。

体制関係

- ・防災部門の人数は多めに取っておくべきだった。

提案・要望等

- ・個々が経験を積むことが何より重要だと思った。本部に意見を求めた案件で、最後まで回答がなかったものがあった。臨機応変に対応できる体制を構築すべきである。
- ・業務上難しいことではあるが、国民保護計画や作業内容の理解が不十分であったため、事前にある程度の知識を入れることは必要だったと思う。
- ・原発については、警備について公安当局が警戒するが、ダム、港湾、空港、駅といった施設については、緊急対処事態の際は、施設管理者の要請を待たずに警戒警備がなされるようにお願いしたい。
- ・部門ごとにオリエンテーションを実施するもしくは各部門のリーダーに対し防災の研修を実施するなどして、いざというときのための体制をより整備していただきたい。
- ・国民保護に限らず防災課では、初動班を中心に訓練を繰り返しているが、他の職員にも訓練を広げるべき。実際の災害時に対応するのは初動班だけではない。より多くの職員が訓練に参加すべきと考える。
- ・訓練に参加した県、関係機関の反省内容等を共有してほしい。
- ・国民保護措置を行う上で、県との連携が重要であり、今後も市町、関係機関を含めた図上訓練を実施してほしい。
- ・参加機関を含めた反省会を希望する。
- ・市町の立場として図上訓練に慣れていくこともあろうが、現実問題として事態発生あるいはおそれのあるときは、県を中心として動くことになるので、今後とも継続して取り組んで欲しい。

その他 全体をとおして

- ・次回からは、今回の訓練を基に、参加機関の国民保護措置の精度を高めていけるような訓練になるよう、あらゆる面で連携を図っていききたい。
- ・各機関の連携要領等、未確認事項も多いため、図上訓練を繰り返し実施して、相互の協力を深める必要がある。
- ・訓練に参加できる人数は限られており、異動で担当が変わっても訓練の成果をどう伝えていくかが重要。
- ・情報共有システムについても今回は各市の情報を整理するのに役立った。
- ・図上訓練(特にブラインド訓練)は、初めてでは、自分がどのように動けばよいのか分からないと思うが、それは次回の訓練に活かされるのと同様に、本当に事象があった場合でも有効だと考える。
- ・市の立場で言うなら、どんどん状況が付与され、「いつ何を適切に判断するか」という点では、意味のある訓練と思う。
- ・初めての図上訓練の参加ということで、訓練の雰囲気をつかむことで精一杯だった。今後、同様な訓練があればぜひ参加したい。